

Otaru  
Dental  
Hygienist  
School

2021年度～授業計画

# Syllabus

1年生

小樽歯科衛生士専門学校

授業科目名	生物		
担当教員名	安田 元昭 歯科医師歴 35年		
開講時期	1年生 前期		
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

生物学の知識は他の基礎科目を理解するうえで必須の知識である。本講義では、高校卒業レベルの生物学の内容を理解習得することを目標とする。特に細胞の基本構造および転写・翻訳などの分子生物学的内容を重視していく。

【授業の進め方】

毎回、講義終了後に演習問題に取り組み知識の定着を確認する。

【使用教本・教材】

プリント および 最新歯科衛生士教本 生物学

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

講義は各授業で配布するプリントやスライドに即して行い、試験範囲もこれらの中から出題します。歯科衛生士教本は副読本として使用する程度なので授業の内容をしっかりとノートにとることを心がけて下さい。

年間授業計画

科目名 生物学

授業科目名	化学	
担当教員名	佐藤 孝紀 歯科医師歴 4年	
開講時期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	2単位 30時間（15回）

### 【授業の目的・到達目標】

#### 《目的》

歯科衛生士は歯科医療の現場で種々の薬物や歯科材料などを取り扱うことから、物質の性質、構造、変化に関する化学の基礎知識が不可欠である。授業では、広い化学の領域のうちでも歯科医学に関連した項目を中心に学び、日常の歯科臨床において取り扱う物質に関する基礎知識を身につけることを目的とする。

#### 《目標》

1. 物質の基本的な構造について説明できる。
2. 気体と液体の種類とそれらの基本的な性質について説明できる。
3. 化学反応の原理について説明できる。
4. 有機化合物の基本的な構造と性質について説明できる。
5. 生体を構成する物質について説明できる。

### 【授業の進め方】

毎回の小テストを行います。

### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 化学

### 【評価方法】

定期試験の得点を8割、小テストを2割とし、合計で6割以上を合格とする。  
点数による絶対的評価とする。

### 【授業心得】

教科書を事前に読んでくること。

# 年間授業計画

科目名 化学

回数	履修主題	履修内容
1	1章 物質とは何だろう	物質の分類、物質の構造
2	1章 物質とは何だろう	原子の電子配置、元素の周期律、物質量、化学結合
3	2章 気体について知ろう	気体のルール
4	2章 気体について知ろう	気体を使う
5	3章 物質が水に溶けるとは	水溶液の濃さの表し方、希薄水溶液の示す不思議な性質
6	3章 物質が水に溶けるとは	身の回りにはコロイドがいっぱい、酸とアルカリの水溶液
7	4章 酸化とは、還元とは	酸化と還元
8	4章 酸化とは、還元とは	金属のイオン化傾向
9	5章 化学反応では	化学反応の速さを決めているもの
10	5章 化学反応では	化学平衡って何だろう
11	6章 有機化合物とは何だろう	有機化合物の成り立ち、有機化合物に名前をつける
12	6章 有機化合物とは何だろう	同じ原子から違った構造が、有機化合物の反応
13	6章 有機化合物とは何だろう	代表的な化合物と性質、高分子化合物
14	7章 ヒトをつくっているもの	水はいたるところに存在する、ヒトを形づくる元素、糖質
15	7章 ヒトをつくっているもの	アミノ酸とタンパク質、脂質、核酸と核酸関連物質

授業科目名	国語		
担当教員名	篠原 弘 高等学校教諭歴 44年		
開講時期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

- 専門学校の学生として学習意欲の向上と授業の成果を挙げるため、その基礎学力としての言語活動の充実を目指す。
- 国語教育の学習を通して、人間性豊かな専門職としての自覚を培う為、思考力。判断力。表現力の充実をめざす。

#### 【授業の進め方】

語彙、文法及び文章の倫理構造を柱に据え講義と演習の授業展開を進める実践的な問題解決型の形態とする。

#### 【使用教本・教材】

国語科としての基礎学習の確実な定着を目指した教材を中心に据えた自作編集教材の作成とする。

#### 【評価方法】

授業への関心、意欲を重視するとともに、小単元による試験・作品の提出及び総括試験を持って点数による絶対的評価する。

#### 【授業心得】

授業のめあてを明確にし課題意識を高めるとともに個人差に応じた指導を重視し、個の学力の定着を目指す。

年間授業計画

科目名 国語

授業科目名	心理学		
担当教員名	槙 洋一 先生 心理学修士歴 23年		
開講時期	1年生 前期		
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

### 【授業の目的・目標】

本科目では、心理学の基礎的な内容を幅広く学ぶことを目的とする。具体的には、心理学の主要なトピックである知覚、記憶、動機づけ、感情、パーソナリティ、対人関係、ストレスなどの基礎的内容を紹介する。講義では、トピックに関する実験や調査のデモンストレーションを可能な限り実施し、受講生が体験的に理解できるようにするので、積極的に参加することを望む。これに加えて、医療場面に役立つと思われる心理学の応用的内容についても紹介する。

### 到達目標

1. 心理学の基礎的内容に関する知識を習得する。
2. 心理学の基礎的内容を発展的に捉え、日常場面(特に医療場面)での応用可能性を具体的に想像することができる。

### 【授業の進め方】

授業前：毎授業プリントを配布するので、A4のファイルを用意してください(ノートはいりません)。  
予習は必要ありません。

授業中：配布するプリントに指示する内容等を書き込んでいってください。  
講義内容に関するデモンストレーションも行います。遅刻しないようにしてください。

授業後：授業内容に関する穴埋め問題を出題するので、復習してください。  
(期末テストは、この問題から出題されます)

### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 心理学

### 【評価方法】

期末テスト：全15回の授業内容に関するテスト … 70%

出席：授業の感想、質問を記述する(毎授業) … 30% を総合した点数による絶対的評価とする。

### 【授業心得】

授業を“勉強”と捉えるのではなく、その内容を自分ならどのように活かすのかを考えると、いつの間にか覚えています。授業を楽しもうという気持ちで臨んでください。

# 年間授業計画

科目名 心理学

回数	履修主題	履修内容
1	ガイダンス 心理学とはなにか	心理学とは何か(定義、誤解を解く、概説) 15章 教本:
2	感覚・知覚	ヒトは外界をどのように捉えているか (錯視のデモンストレーション) 教本: 1章
3	記憶1	記憶過程に関する代表的モデルの紹介 (短期記憶に関する実験) 教本:2 章②
4	記憶2	記憶の分類 (視覚的な記憶に関する実験) 教本:2章 ②③
5	思考	トップダウンとボトムアップ (スキーマ、推論に関するデモンストレーション) 教本:7 章
6	感情	感情のメカニズム 教本:4 章①
7	動機付け・葛藤・学習	動機付け、葛藤 学習、条件付け 教本:3章, 4章②, 2 章①
8	パーソナリティ1	知能に関する理論 (次回授業の準備:性格検査) 教本: 6章
9	パーソナリティ2	性格に関する理論 性格の測定法 教本: 5章
10	発達1	発達段階と発達課題 乳児期の発達 (乳児期に関するビデオ) 教本: 8章
11	発達2	認知機能の発達 乳児期以降の発達 教本:8章, 9章
12	社会心理学	対人認知、印象形成 態度、同調・服従 教本:10章, 11 章
13	ストレス	ストレスの定義、ストレスへの対処(コーピング) (ストレスに関する質問紙を実施する) 教本:12章①, 4 章③
14	心理臨床	精神疾患・心理的問題 心理療法 教本:12章 ②③
15	カウンセリング 全体のまとめ	医療場面への応用 14章 教本:13章,

授業科目名	解剖学・組織発生学		
担当教員名	入江 史子 歯科医師歴 30年		
開講時期	1年生 前期・後期		
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間(15回)

#### 【授業の目的・到達目標】

- ・人体の構造や名称を理解し、さらに頭頸部に関わる骨・筋・脈管・神経の器官系に精通すること。
- ・人体の構造は肉眼のみならず、顕微解剖学的構造も知る必要がある。  
特に上皮・支持組織の構造を理解すること。
- ・人体の組織や器官は1つの受精卵から分化して形成される。  
細胞の分化と成熟過程、分化由来を理解すること。

#### 【授業の進め方】

教科書を原則に、パワーポイントを用いたスライドと板書を学生にはノートに記入してもらう。  
毎回の講義終了時に復習のために課題を出し、次回の講義時に回収する。

#### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 『解剖学・組織発生学・生理学』

#### 【評価方法】

前期試験の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

授業後の復習を心がけること

年間授業計画

科田名 解剖學・組織發生學

回数	履修主題	履修内容
1	総論	人体の区分、細胞・組織の構造、器官系の種類
2	骨格系1	骨の構造、形態、結合様式、全身の骨の名称
3	骨格系2	全身の骨の名称(頭を中心に)
4	筋系1	筋の構造、形状、起始と停止、全身の筋の名称
5	筋系2	全身の筋の名称(頭を中心に)
6	消化器系1	消化管の構造と働き(口腔～肛門)
7	消化器系2、呼吸器系1	肝臓、脾臓の構造と働き、鼻腔の構造、副鼻腔
8	呼吸器系2、泌尿器系	喉頭～肺までの構造と働き、腎臓の構造、尿路
9	生殖器系、内分泌系	男女の生殖器と外陰部の構造、ホルモンの名称
10	脈管系1	心臓の構造、刺激伝導系、全身の大動脈
11	脈管系2	頭頸部の動脈、静脈系、リンパ系
12	神経系1	脳と脊髄の構造
13	神経系2	脳神経名と自律神経
14	感覚器、発生学1	受容器の構造、骨・顔面の発生
15	発生学2	口腔・歯の発生

授業科目名	生理学		
担当教員名	山口 一郎	歯科医師歴	29年
開講時期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

#### 【授業の目的・目標】

医学を学ぶに際し、最初で基本となるのが、解剖学と生理学である。解剖学がヒトの基本構造を学ぶのに對し、生理学は生きていく仕組みを学ぶ學問である。生理学において、ヒトの体の仕組みや働きを明らかにするのである。緊張するとヒトはなぜ喉が渴くのか？人類のうち9割ものヒトがなぜ右利きなのか？日常疑問に思っていることを講義に交え、難しいといわれる生理学を解りやすく講義を進めていきたいと思っている。また、ほぼ毎回講義終了後に、家庭學習用プリントを配布し、提出してもらう。

#### 【授業の進め方】

教本と配布資料を用いて講義を進める。  
必ず板書をするので、ノートを取ることを必須とする。

#### 【使用教本・教材】

「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」

#### 【評価方法】

家庭學習用プリントの提出、定期試験の点数による絶対評価

#### 【授業心得】

## 年間授業計画

科目名 生理学

回数	履修主題	履修内容
1	生理学の基本	生理学の基本とは、ホメオスタシス
2	細胞	細胞の基本構造と役割、細胞分裂など
3	骨格系	骨の働きと成長、代謝、関節の構造と役割など
4	運動器	骨格筋の構造と仕組み、筋収縮など
5	神経系①	ニューロンと神経興奮、シナプスとは
6	神経系②	脳の仕組みと役割、中枢神経と末梢神経など
7	感覚器	感覚器とその仕組み
8	循環器①	心臓の構造と仕組み
9	循環器②	血管の機能、血液循环
10	体液	体液の組成、役割
11	血液	血液の成分、止血と血液凝固
12	呼吸器系	呼吸の機能と調節、発声の仕組み
13	消化器系	消化吸收における各臓器の働き、栄養とエネルギー
14	内分泌系	内分泌器官とホルモン
15	排泄・生殖	腎・泌尿器の仕組みと調節と生殖器

授業科目名	生化学		
担当教員名	藤澤 隆一 歯科医師歴 41年		
開講時期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

**【授業の目的・到達目標】**

糖質、脂質、タンパク質という三大栄養素を中心に、それらがヒトの体内でどのように代謝されているかを理解する。

口腔生化学の特に、歯を中心とする口腔組織の構成成分、歯の石灰化、唾液の化学組成、歯垢を中心とする歯の堆積物、う蝕と歯周疾患の免疫学について理解する。

**【授業の進め方】**

教本を基本としての板書、その他プリント・模型などの資料で行う

**【使用教本・教材】**

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 栄養と代謝

**【評価方法】**

定期試験、授業態度の点数による絶対的評価とする。

**【授業心得】**

# 年間授業計画

科目名 生化学

回数	履修主題	履修内容
1	細胞の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細胞の構造を理解する</li> <li>・ 細胞小器官の働きがわかる</li> </ul>
2	生体における水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酸と生成する陰イオンがわかる</li> </ul>
3	生体構成成分と栄養素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体を構成する成分を栄養素別に分類できる</li> </ul>
4	生体における化学反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生体における消化・吸収・エネルギー代謝がわかる</li> <li>・ 生体における恒常性の維持がわかる</li> </ul>
5	糖の代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糖質の代謝がわかる</li> </ul>
6	脂質の代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脂質の代謝がわかる</li> </ul>
7	たんぱく質の代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たんぱく質の加水分解を理解する</li> <li>・ たんぱく質の生合成がわかる</li> </ul>
8	歯・口の生化学 結合組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 線維性たんぱく質の種類がわかる</li> <li>・ コラーゲン、エラスチンの違いがわかる</li> </ul>
9	歯・口の生化学 歯の構成成分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨・歯の構成成分がわかる</li> </ul>
10	歯・口の生化学 石灰化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯と骨の石灰化の特徴を理解する</li> </ul>
11	歯・口の生化学 石灰化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カルシウムとリン酸代謝の調整機構がわかる</li> <li>・ 脱灰がわかる</li> </ul>
12	歯・口の生化学 唾液	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 唾液の生化学を理解する</li> </ul>
13	歯・口の生化学 プラーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラークの組成、形成、代謝を理解する</li> <li>・ ペリクルの組成、形成、機能を理解する</li> </ul>
14	歯・口の生化学 歯石	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯石の組成と形成を理解する</li> </ul>
15	歯・口の生化学 口腔疾患と自然免疫系 口腔疾患と獲得免疫系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯周組織の自然・獲得免疫を理解する</li> </ul>

授業科目名	歯牙解剖学		
担当教員名	山岡 孝義 歯科医師歴 20年		
開講時期	1年生 前期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

##### 《目的》

歯が正常に機能するには上下顎の歯が正しく並び、咬みあう必要がある。歯の機能を考える際には、個々の歯の形態や、歯列の形態が非常に大きく影響する。これらに関して理解を深めることは、歯科臨床において必要不可欠である。歯牙解剖学では、歯の形態や、生物学的な意義について学ぶ。

##### 《目標》

1. 歯の生物学的な意義、形態について理解する。
2. 歯の名称や記号を理解する。
3. 歯種について区別がつけられるようになる。

#### 【授業の進め方】

毎回小テストを行い、理解度を確認します。

#### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

#### 【評価方法】

定期試験の得点を8割、小テストを2割とし、合計で6割以上を合格とした点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

教科書を事前に読んでくること。

年間授業計画

科目名 齒牙解剖学

授業科目名	解剖学実習	
担当教員名	太田 桂吾 齢科技工士歴 41年	
開講時期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位 20時間(10回)

#### 【授業の目的・到達目標】

- 1) 個々の歯牙形態について、同一歯種の上・下顎の形態差、同一顎の歯種内の形態差、同一歯の近・遠心側及び、唇(頬)側・舌(口蓋)側の形態差について理解させる。
- 2) 形態を含めた各歯冠の名称を正確に理解させる。
- 3) 歯型彫刻を通して立体的な歯牙の特徴を捉えさせる。

#### 【授業の進め方】

- 1) スケッチ…個々の歯牙を切縁(咬合面)、唇(頬)側、舌(口蓋)側、近・遠心側の5面からその特徴を捉えたスケッチを行なうと共に各部の名称を記入させる。
- 2) 石膏彫刻…歯牙の特徴を捉えると共にデザインナイフ等で石膏を削合することで指先の細かな動作と注意力を身につけさせる。

#### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

#### 【評価方法】

- 1) スケッチ…各部の名称が正しく記入されているか。
  - 2) 石膏彫刻…歯牙の特徴を捉えているか。
  - 3) 石膏柱…気泡がなく、なめらかに作成されているか。
- (1)から(3)を統合し、定期試験の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

歯牙の特徴及び各部の名称(咬頭、隆線等)を覚えておくこと。

年間授業計画

科目名 解剖学実習

授業科目名	解剖学実習		
担当教員名	笹山 美香	歯科衛生士歴	25年
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	25年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	47年
開講時期	1年生 前期		
授業形態・単位数・時間	講義・実習		10時間（5回）

#### 【授業の目的・到達目標】

歯牙彫刻作成のための前準備として、石膏柱を作製する  
石膏の取扱いを十分に学習し、的確な混水比・練和・注入方を理解する

#### 【授業の進め方】

石膏柱の作成実習

#### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版  
最新歯科衛生士教本 歯科材料

#### 【評価方法】

気泡がなく表面が滑らかな石膏柱の作成。  
解剖学実習(スケッチ・彫刻)と総合した定期試験の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

## 年間授業計画

科目名 解剖学実習

授業科目名	微生物学・口腔微生物学		
担当教員名	柴田 健一郎 歯学博士歴 33年		
開講時期	1年生 前期・後期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

**【授業の目的・到達目標】**

歯科衛生士業務における予防処置、保健指導をおこなうにあたり、  
それに関連した病原菌やその性状、発症のメカニズムについて理解する。

**【授業の進め方】**

教本、パワーポイント、プリント等を使用して授業を行う

**【使用教本・教材】**

最新歯科衛生士教本 微生物学

**【評価方法】**

定期試験、出席状況等を総合した点数による絶対的評価とする。

**【授業心得】**

予習、復習は必ずおこなう

授業には積極的に参加し、わからないことがあればそのつど質問する

年間授業計画

科目名 微生物学·口腔微生物学

授業科目名	病理学・口腔病理学		
担当教員名	上浦 庸司 歯科医師歴 27年		
開講時期	1年生 後期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

病気の原因、経過、転帰について学び、歯科衛生士として患者さんにう蝕・歯周病を主とする

口腔内の各種疾患について十分説明できるようになってもらう。

口腔病理を理解するための基礎的な知識として病理概説を理解する。(特に炎症)

#### 【授業の進め方】

基礎的な内容についても、臨床と結びつけて興味を持って学んでもらう。

#### 【使用教本・教材】

教科書:最新歯科衛生士教本 病理学

その他:教科書に即した各種スライド(アニメーションやムービー)

#### 【評価方法】

毎回の小テスト、定期試験、授業中の解答を総合した点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

教員として真剣に授業を聞いてもらように最大限工夫をするが、生徒も十分な準備(復習、

前日の睡眠)のもと、授業に臨んでいただきたい。

## 年間授業計画

科目名 病理学·口腔病理学

授業科目名	薬理学・歯科薬理学		
担当教員名	飯村 忠浩 歯科医師歴 30年		
開講時期	1年生 前・後期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

### 【授業の目的・到達目標】

授業の目標:

歯科衛生士は日常の臨床の場で種々の薬物を取り扱う。それらの薬物を患者に対して有効にかつ安全に、また、衛生士自身にとっても安全に使用するためには、薬物に関して十分な知識を持ち、正しい取り扱い方を身につける必要がある。また、全身疾患を有し他の科で種々の薬物を投与されている患者の来院も多いことから、歯科以外で使用される薬物についても基本的な知識を持つ必要がある。このような目的で薬理学を学ぶ。使用する教科書のⅠ章:総論には、薬理学の中でも是非知っておきたい必須事項が多く含まれているため、1年生では総論に多くの時間をかけて学ぶ。

到達目標:

1. 薬物の分類と薬理作用、副作用について理解し説明できる。
2. 薬物の取り扱い方と法令について理解し説明できる。
3. 神経系の全身疾患において投与される薬物について説明できる。

### 【授業の進め方】

記憶すべき語句を空欄の括弧として教科書から重要な箇所を抜粋したプリントと、教科書の各章ごとに歯科衛生士国家試験の既出問題を分類したプリントを配布する。授業は、プリントに抜粋した部分を中心にパワーポイントで示しながら説明して進める。プリントの空欄括弧内に入るべき語句はパワーポイントでは赤字で示されるので、授業を聞きながらプリントの括弧を埋めていく。衛生士国家試験の既出問題は、直接関連する授業時間中に考えさせ、解答と解説を行う。

### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学

### 【評価方法】

出席日数を満たし定期試験の点数による絶対的評価とする。

### 【授業心得】

薬理学はカタカナの用語が多く、難しく感じるかもしれないが、ある程度学習が進むと必要とされる用語の数は限られていることが理解できると思う。毎回の授業を大切に集中して受けること。また、国家試験の出題問題の範囲もある程度限られているので、既出問題の解答と解説を大事にすること。

年間授業計画

科目名 藥理学・歯科薬理学

授業科目名	歯科衛生士概論	
担当教員名	加藤 友一 歯科医師歴 34年	
開講時期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

#### 【授業の目的・目標】

近年日本国民のライフステージを通した歯や口腔の健康づくりの重要性が叫ばれるようになり、歯科医療現場のみならず、介護の場においても歯科衛生士の活躍がますます求められるようになってきている。

こうした社会的要請に応えるべく、関連する法律を学び、歯科衛生業務に対する考え方や行動の仕方を理解するとともに、科学的な裏付けをもって仕事をすることの意味を考える。

#### 【授業の進め方】

教本を中心に！

#### 【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論

#### 【評価方法】

- ・テスト
  - ・ノートの整理状況
  - ・出席状況
- ] を総合した点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

私語を慎しみ、ノートをとる。

# 年間授業計画

科目名 齢科衛生士概論

回数	履修主題	履修内容
1	歯科衛生士とは 歯・口の健康と疾病・異常	歯科衛生士の法律的性格と業務内容の要点 歯と歯のまわりの疾病と異常
2	歯科医療と歯科保健 歯科医療保健をささえるもの	医療・保健指導・公衆衛生 歯科医療の三つの要素とその分野
3	"	"
	歯科医療保健にたずさわる人	歯科に関連する職種
4	歯科衛生士の役割り "	業務内容の詳細、様々な活動の場での役割 "
5	歯科衛生士業務の発展 歯科衛生士に必要な心構え	歯科衛生士の業務の社会的ひろがり 専門職としての良識ある社会人の自覚
6	歯科衛生士に必要な知識と技能 歯科衛生士の業務の展開	業務に必要な知識と技能をもつ 職業人として守るべき事項
7	"	仕事場での管理・事故対策
	歯科衛生士の略史	我国での歯科衛生士の誕生とその歴史
8	外国の歯科医療	海外で活動した方の体験を聞く

授業科目名	歯科臨床概論	
担当教員名	加藤 友一	歯科医師歴 34年
	山口 一郎	歯科医師歴 29年
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 25年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 25年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 47年
開講時期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

新入生に対して、1・2週目から始まる授業やこれからの学習のためのオリエンテーションを目的として、集中的に組まれた授業です。

各授業科目には共通する専門用語もあり、必要とする基礎知識もあります。

それらを考慮して企画されたこの「歯科臨床概論」授業を受けて、これからの学習の助けとともに、学ぶ喜びを思い起こし、授業が楽しみになることを目的とする。

#### 【授業の進め方】

#### 【使用教本・教材】

医歯薬出版	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導 第2版
	最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
	頭蓋模型、歯列模型

#### 【評価方法】

授業毎の実施の小テストと授業態度の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

年間授業計画

## 科目名 齒科臨床概論

授業科目名	歯科保存学(保存修復学)	
担当教員名	細川 宗靖	歯科医師歴 16年
開講時期	1年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	10時間 (5回)

#### 【授業の目的・到達目標】

臨床の中でも比較的高頻度の治療割合を占める保存修復の分野を、教本をベースとし、臨床に即した講義内容により、国家試験をめざすとともに、歯科衛生士に必要な知識の習得を目指とする。

#### 【授業の進め方】

教本に沿って進めていくと同時に、他科目との関連や国家試験を絡めた補足説明を行い、学生と知識の確認をしながら進めていく。

#### 【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法

#### 【評価方法】

毎回の授業態度や定期試験の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

1年生と言えども、遠い先ではない国家試験を念頭に、常に国家試験を意識し、モチベーションを徐々に高めながら授業に取り組んで欲しい。

年間授業計画

科目名 歯科保存学(保存修復学)

授業科目名	歯科保存学(歯周療法学)		
担当教員名	姫野 宏 歯科医師歴 51年		
開講時期	1年生 後期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	24時間 (12回)

#### 【授業の目的・到達目標】

- ・歯周疾患は、齲歯に並び口腔領域における2大疾患とされており、歯を失う原因の一つとされている。
- 現在、超高齢社会をたどる日本国内において、8020運動。80歳で20本の歯を残そうという運動に先駆け、歯科医師のもと、歯科衛生士が行う予防処置、歯周病治療はとても重要な役割を果たす。
- その中で、歯周病における知識・技術の習得を目指すとともに、一人でも多くの歯周病認定歯科衛生士として活躍できるような歯科衛生士を目指し養成していくことを目標とする。

#### 【授業の進め方】

- ・講義を中心に授業を展開。
- ・技術の習得面においては、演習を挟みスケーラーの構成やシャープニングの実習なども含めて行う。

#### 【使用教本・教材】

- ・教本:最新歯科衛生士教本 歯周病学 (第2版)
- ・スケーラーセット、シャープニング器材など

#### 【評価方法】

- ・日常点(授業態度など)
  - ・小テスト(確認テスト)
  - ・レポート作成
  - ・定期試験
- ] を総合した、点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

- ・臨床的な内容も含めて行うので、板書をしっかりと取り、重要な説明はそのつどメモもしくは、ノートをしっかりとまとめてること。

### 年間授業計画

科目名 歯科保存学(歯周療法学)

授業科目名	歯科補綴学（総論）		
担当教員名	平井 晋 歯科医師歴 29年		
開講時期	1年生 後期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

- ・歯の実質欠損や喪失により生じた形態や機能の低下を補綴物で補い、回復するのみではなく、予防するという重要性を理解する。
- ・歯の欠損による障害は身体的障害だけではなく、心理的な障害にも関係があることを理解する。
- ・顎関節の構造と機能を理解する

#### 【授業の進め方】

教本を使う授業と実際の補綴物を見てもらって進める授業を実施

#### 【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科補綴

#### 【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

## 年間授業計画

科目名 歯科補綴学(総論)

授業科目名	口腔外科学（総論）		
担当教員名	山本 栄治 歯科医師歴 20年		
開講時期	1年生 前期・後期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

1. 人体の基本的特徴を理解する。
2. 歯科の特殊性を理解する。
3. 硬組織と軟組織の違いを押さえる
4. 咬合の基本を理解する
5. 外科の基本を理解する
6. 口腔外科とは何かを理解する

#### 【授業の進め方】

講義中心、時々スライドを交えて

#### 【使用教本・教材】

教科書中心に 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」

#### 【評価方法】

期末試験 + 平常点を総合した点数による絶対的評価とする

#### 【授業心得】

人体に興味を持つこと

常に自他の健康増進について考える事

年間授業計画

科目名 口腔外科学（総論）

授業科目名	小児歯科学		
担当教員名	坂口 友朗 歯科医師歴 27年		
開講時期	1年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

- ・小児歯科では、治療の対象が成長を続ける小児であり、治療においては予防処置～治療～メンテナンスの重要性までと極めて広範囲にわたる。
- その中で、小児患者に対する対応や保護者に対する対応（協力）においても治療を進めていくには不可欠なものである。
- 小児歯科学では、乳歯・永久歯の特徴を理解するとともに、成長（発育）・状態・精神面を考え対応等ができるような知識の向上を目標とする

#### 【授業の進め方】

- ・実際の小児に対する歯科治療のスライドを用い、講義中心に行う。
- また、将来、母親となった時に必要な乳幼児との接し方や育て方なども含めて題材に取り入れ授業を展開する

#### 【使用教本・教材】

- ・最新歯科衛生士教本 小児歯科
- ・臨床における小児患者のスライドやグラフ・表など

#### 【評価方法】

- ・日常点（授業態度など）、定期試験の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

- ・予習、復習をかならず行うこと。
- ・授業内の私語、居眠り等は慎むこと。

### 年間授業計画

科目名 小兒齒科學

授業科目名	歯科材料学		
担当教員名	山口 一郎 歯科医師歴 29年		
開講時期	1年生 前期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

#### 【授業の目的・到達目標】

歯科医療において、歯科材料を扱わないことはない。歯科衛生士として、歯科材料の基本的な知識、取り扱い方を学ぶ。

#### 【授業の進め方】

スライドを行い、優しい質問をしながら、みんなで考えるような授業を進める。  
毎回、プリントを配布し、その説明を行う。  
ときどき、小テストを行い、知識の整理を行う。

#### 【使用教本・教材】

新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い

#### 【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする

#### 【授業心得】

できるだけ興味を引くように授業を進めていくので、質問等は積極的にして欲しい。

## 年間授業計画

科目名 歯科材料学

回数	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などの説明
2	歯科材料と歯科衛生士	医療従事者としての人間性を考える
3	歯科材料の基礎知識	物理学、化学、生物学の基礎と歯科材料との関係
4	歯科材料の基礎知識	物理学、化学、生物学の基礎と歯科材料との関係
5	歯科材料の取り扱い	歯科材料に関わる基本性質
6	歯科材料の取り扱い	歯科材料に関わる基本性質
7	歯科材料の取り扱い	シーラント
8	歯科材料の取り扱い	成形歯冠修復用コンポジットレジン
9	歯科材料の取り扱い	成形歯冠修復用コンポジットレジン
10	歯科材料の取り扱い	成形歯冠修復用コンポジットレジン
11	歯科材料の取り扱い	グラスアイオノマーセメント
12	歯科材料の取り扱い	歯科用アマルガム
13	歯科材料の取り扱い	仮封材
14	歯科材料の取り扱い	暫間被覆冠および仮着材
15	歯科材料の取り扱い	授業のまとめ

授業科目名	歯科放射線学	
担当教員名	迫 健太郎 歯科医師歴 14年	
開講時期	1年生 前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	20時間(10回)

#### 【授業の目的・到達目標】

様々な放射線がある中で主に、口腔領域の診断の際に必要不可欠なエックス線(X-Ray)について、その発生から性質、撮影方法、エックス線写真となるまでの過程、生体への影響について学び、国家試験で問われる知識ならびに歯科衛生士として必要な知識を理解する。

#### 【授業の進め方】

基本的事項を学んだ後、演習問題、小試験で知識を確認していく。  
要所で指名し、質問に答えてもらう。

#### 【使用教本・教材】

- 1) 東 与光、青山 亘、鈴木 信一郎:ORAL RADIOROGY、日本医事新報社、1987年、第7版
- 2) 全国歯科衛生士教育協議会編集:新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科放射線学、医師薬出版株式会社、2002年、第1版8刷
- 3) 全国歯科衛生士教育協議会監修:最新歯科衛生士教本 歯科放射線、医師薬出版株式会社 2009年、第1版1刷
- 4) 飯久保 正弘、犬童 寛子、香川 豊宏、河合 泰輔、後藤 真一:歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学、(株)学建書院、2012年、第2版 なお、授業で主に 使用するのは4)わかりやすい歯科放射線学、(株)学建書院、2012年、第3版である。プリントを配布し、要点を整理していく。

#### 【評価方法】

二等分法の原理の理解を重要視する。  
定期試験の点数による絶対的評価とする。

#### 【授業心得】

他の科目同様に臨んで欲しい。最低でも国家試験で問われる知識の習得を望む。

年間授業計画

科目名 歯科放射線学

授業科目名	歯科予防処置法		
担当教員名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	25年
	笹山 美香	歯科衛生士歴	25年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	47年
開講時期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	5単位	150時間

### 【授業の目的・到達目標】

前期：歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔の保健管理を目的とした予防的歯石除去を行うための知識・技術・態度を習得する。

後期：予防的歯石除去の知識・技術及び態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実を図る

### 【授業の進め方】

- ・講義
- ・実習

### 【使用教本・教材】

- ・教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論  
歯科衛生士のための齲歯予防法

### 【評価方法】

- ・定期試験
  - ・技術試験
  - ・小テスト
  - ・レポート課題
  - ・授業・実習態度
- } 総合した、点数による絶対的評価とする。

### 【授業心得】

- ・予習・復習は常に心掛ける
- ・歯科予防処置は歯科衛生士の独占業務である。その為に必要な技術の習得は日々の訓練によって獲得できる！訓練を怠らないように！
- ・課題においては、提出期限を厳守とする

授業科目名	う蝕予防処置		
担当教員名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	25年
	笹山 美香	歯科衛生士歴	25年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	47年
開講時期	1年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位	30時間

#### 【授業の目的・到達目標】

目的：歯科衛生士として、齲蝕予防処置を行うための知識・技術を身につける。

#### 【授業の進め方】

- ・講義
- ・実習

#### 【使用教本・教材】

- ・教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論  
歯科衛生士のための齲蝕予防処置法

#### 【評価方法】

- ・定期試験
  - ・技術試験
  - ・小テスト
  - ・レポート課題
  - ・授業・実習態度
- } の点数による絶対的評価

#### 【授業心得】

- ・予習・復習は常に心掛ける
- ・課題においては、提出期限を厳守とする
- ・う蝕予防を行う、公衆衛生活動に積極的に参加する

授業科目名	歯科保健指導法		
担当教員名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	25年
	笹山 美香	歯科衛生士歴	25年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	47年
開講時期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	3単位	90時間

### 【授業の目的・到達目標】

#### 授業目標

- 前期 歯科保健指導とは対象者の生活行動を歯科保健行動に変容させることを目的とする。  
その目的のため、各分野(清掃法・食事指導など)の指導に必要な幅広い知識と基本的な技術を理解、習得する。
- 後期 対象者別、疾病別の指導法を理解し、的確に助言・援助できるよう学習する。  
小集団指導に対する伝達技術・媒体の作成法を習得し、症例別に立案・作成し発表することを目標とする。

### 【授業の進め方】

講義、演習、実習

### 【使用教本・教材】

- |           |                     |
|-----------|---------------------|
| 最新歯科衛生士教本 | 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 |
| 最新歯科衛生士教本 | 保健情報統計学             |
| 最新歯科衛生士教本 | 栄養と代謝               |
| その他プリント   |                     |

### 【評価方法】

- ・授業態度
  - ・課題、レポート
  - ・定期試験
- 以上を総合し、点数による絶対的評価とする

### 【授業心得】

- ・予習復習は常に行うようにする
  - ・レポートの提出日は必ず守ること
- 保健指導は対象者によって指導の内容が違うので、数学のように画一的な答えは出なく、すべての科目の内容を把握しないと、適切な指導はできません。
- 全教科の集大成が歯科保健指導と考えて学習すること。

授業科目名	歯科診療補助法		
担当教員名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	25年
	笹山 美香	歯科衛生士歴	25年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	47年
開講時期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	7単位	210時間

### 【授業の目的・到達目標】

#### 授業目標

- 【前期】歯科診療補助を行う際に必要な全般的な知識・技術を理解するにあたり、術者との共同動作や対面行為の実際について習得させる
- 【後期】歯科診療補助に必要な基礎的技術のうち、各分野における処置別歯科診療補助法の実際として、器材のセッティング、処置の流れに沿った的確な介助法、処置後のメンテナンス器材の後始末について習得させる

### 【授業の進め方】

講義、実習

### 【使用教本・教材】

- 最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版  
 新歯科衛生士教本 歯科材料の知識と取り扱い  
 新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取り扱い  
 最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法  
 最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔

### 【評価方法】

- 1、授業態度
- 2、実技試験
- 3、課題レポート
- 4、定期試験

以上のものより、点数による絶対的評価とする

### 【授業心得】

- 予習復習は常に行うようにする  
 レポートの提出日は必ず守ること  
 実技に関しては常に訓練を怠らないこと